B2Bソリューションを支える インダストリアル技術特集によせて

パナソニック（株） 執行役員
オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ社
副社長 技術担当（兼）技術本部長 藤井 英治

オートモーティブ＆インダストリアルシステムズカンパニー（AIS社）は，パナソニック（株）の社内カンパニーの1つで，オートモーティブ，インダストリアルおよびエナジー事業における，材料・デバイスからシステムまで広範囲の技術を担当しています．そのなかでも本号では，B2Bソリューションを支えるインダストリアル技術をご紹介していますが，まず初めにその背景と方向性について説明します．

過去の当社におけるインダストリアル技術といえば，デジタル家電，スマートフォンなどのICT機器，および工場ラインなどの制御機器の省エネルギー性能や高速性能に貢献するさまざまな材料・デバイス技術でした．もちろん現在においても，これらの材料・デバイス技術は，家電や機器の進化を支えるキー技術として，高品質・高性能・低コストを追求しています．しかしながら，トリリオンセンサ時代に向かっているIoT（Internet of Things）の加速度的進展，人類知能を超える技術特異点（Singularity）が限定的ではあるものの現実となってきた人工知能（Artificial Intelligence，AI）の非連続進化，さらには桁違いのコンピュータ処理能力の向上などのメガトレンドは，B2B事業に質的変化をもたらし，事業を支えるインダストリアル技術にも新たな視点が必要と考えています．

B2B事業の質的変化を端的に表現すると，「モノからコトへ」となり，まさにタイトルどおりB2Bソリューションが必要となってくると思われます．すなわち，B2B事業のお客様が，品質・性能・コスト重視の機器などの「モノ」から，例えば，機器からのさまざまな大量のデータ（Big Data）をAI技術などで価値あるソリューション，まさに「コト」に変換して提供するデータドリブンのサービスソリューションの方向へと変化していると考えています．このような質的変化を考えたとき，当社の事業としても，お客様の「モノ」の強さを支えるだけでなく，お客様のソリューションのお困りごとを解決することで，「コト」としての価値提供を最大化する方向へと変化する必要があると思います．

このようなデータドリブンのサービスソリューションに向けた変化を支えるインダストリアル技術の方向性は，認識，判断および動作の3要素の技術プラットフォームをご用意し，解決すべき課題にあわせて組み合わせを変え，ソリューションとしてご提供することと考えています．これは，言いかえれば，お客様との共創により，お客様がサービスドミナント事業のコアコンピタンスに集中して価値最大化するクロスバリューイノベーションに，当社のインダストリアル技術の方向性，すなわちお役立ちの形を定めたことになると思います．

お客様とのクロスバリューイノベーションによる当社のお役立ちの形も多岐にわたると考えています．例えば，当社の幅広い材料・デバイス・システム技術とお客様の技術との掛け合わせでソリューション価値を高める場合もあるでしょう．また，お客様のトータルソリューションの一部について，認識，判断および動作の3要素の技術プラットフォームの組み合わせでご提供する場合もあると考えられます．いずれのケースにおいても，お客様のデータドリブンのサービスソリューションの価値最大化に貢献するという観点では共通しています．そこでのお役立ちの形は，価値あるデータを取得し（認識），お客様にとって意味ある「コト」に変換すること（判断，動作），すなわちリアル空間とクラウド空間とをつなぐエッジ空間の部分に貢献することであり，そこに集中した取り組みを行っています．

本号では，サービス価値重視のB2Bソリューションを支えるインダストリアル技術のプラットフォームをご紹介しています．さまざまなお役立ちの形が考えられるため，細野先生にご寄稿いただいた先進的材料設計技術に加え，材料・デバイスにとどまらず，システム・ソリューションまで多岐にわたっています．基本的には，エッジ空間における当社のお役立ちの形の一端を示したものであり，お客様とのクロスバリューイノベーションによりお客様のB2Bソリューションの価値最大化に貢献することを目指したものです．本号をご高覧いただく皆様に当社のインダストリアル技術に関してご理解いただくとともに，忌憚（きたん）のないご意見をいただければ幸いです．